

マーケットの動き（2026年7月6日～7月10日）

先週の為替市場は、前週末比で米ドルは対円で上昇（円安）しました。中東情勢が再び緊迫化したことによる原油高を受け、エネルギーの大半を輸入に頼る日本の貿易赤字が拡大するとの見方などから円は売られました。しかしその後、10日の片山財務相の発言を受け、年金基金が円建て資産を増やすとの思惑から円は買い戻され、ドルは対円で上昇幅を縮めて週を終えました。ユーロは前週末比、対円で上昇した一方、対米ドルでは下落しました。

投資環境見通し（2026年7月）

米ドル、ユーロはともに円に対して強含みで推移

米ドル：FRB（米国連邦準備制度理事会）による年内の利上げ観測が広がる中、日本の財政懸念を背景とした円安圧力もあり、米ドルは円に対して強含みで推移するとみています。ただし、日本政府・日銀による円買い市場介入に対する警戒感も広がりやすく、当面の上値は抑えられるとみています。

ユーロ：ECB（欧州中央銀行）による追加利上げ観測が広がる中、日本の財政懸念を背景とした円安圧力もあり、ユーロは円に対して強含みで推移するとみています。ただし、日本政府・日銀による円買い市場介入に対する警戒感も広がりやすく、当面の上値は抑えられるとみています。

	7月10日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	161.83	0.54	1.33	3.95	15.32
ユーロ/円	184.85	0.30	▲0.56	1.07	13.73

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

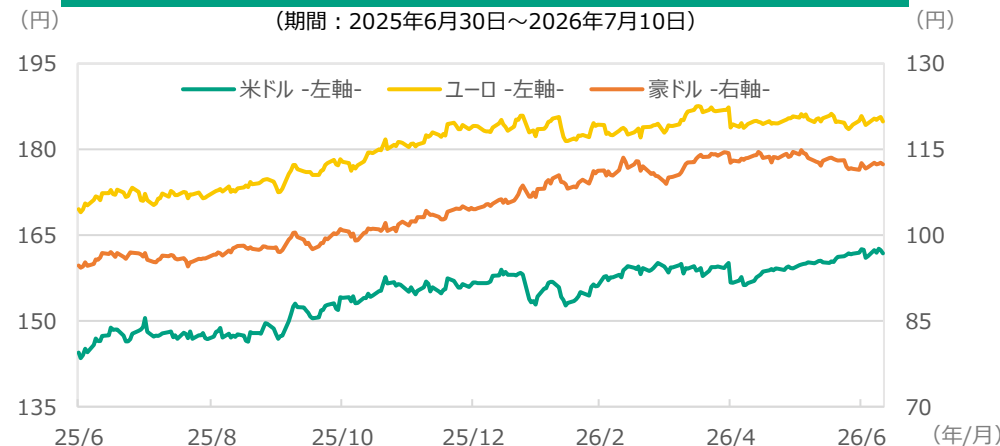
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202607_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

為替レートの推移（対日本円）

（期間：2025年6月30日～2026年7月10日）



為替レートの推移（対米ドル）

（期間：2025年6月30日～2026年7月10日）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成